

令和5年度自己点検・評価報告書

令和6年10月

国立大学法人
北海道国立大学機構

第4期中期目標・中期計画における自己点検・評価結果（令和5年度実績）について

当機構では、中期計画の進捗状況を毎年点検し、定期的に評価することで、目標達成に向けた取組の促進に活用する「中期目標・中期計画評価」を実施することとしています。

この度、中期計画の下に設定された指標について令和5年度実績の点検を実施したところ、多くの指標が順調または予想以上に進捗していることを確認しました。一部には目標数値に至らないものもありましたが、中期計画の進捗状況としては、過度な遅れはないことを確認しました。

なお、目標に至らなかった指標については、中期計画の達成に向けて、対策を検討・実施しております。

各目標・計画の進捗状況の点検結果は次ページから示しております。

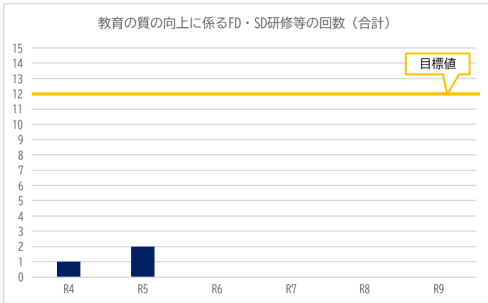
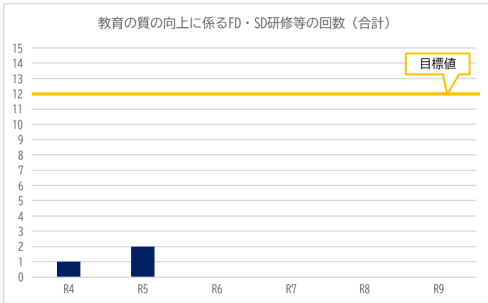
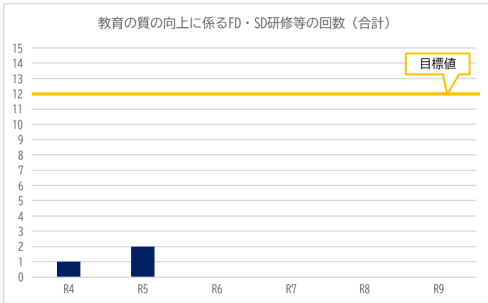
○ 各中期目標の達成状況

中期目標
①

人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。

中期計画	中期計画の実施状況等					
<p>【01】北海道国立大学機構は、社会から寄せられる多様な期待に応えることで北海道が抱える課題解決に貢献するため、社会との窓口として地域連携プラットフォームを設置し、地域や産業界からの人材養成及び研究ニーズを取り入れることで、地域課題解決型の実践的な教育プロジェクトの提供、北海道の産業振興に繋がる共同研究の実施など教育・研究の活性化につなげる。</p> <p>○評価指標</p> <table border="1" data-bbox="174 778 907 847"> <tr> <td>①地域連携プラットフォームにおける地域ニーズへの対応状況・方針及び法人ビジョンの公開</td> </tr> </table>	①地域連携プラットフォームにおける地域ニーズへの対応状況・方針及び法人ビジョンの公開	<p>≪中期計画の実施状況≫ <令和5年度の実績> ・令和6年度の地域連携プラットフォーム設置に向け、以下の取組を実施した。 　➢ 地域連携プラットフォームの一部門となる「北海道リカレント教育プラットフォーム」を先行して構築し、リカレント教育に関する全道的なニーズ調査分析、プラットフォーム内での共有・ディスカッション及びプラットフォームが有するシーズとのマッチングを行い、産学官金連携による実践的リカレント教育プログラムの開発設計・実施の取り組みに先鞭をつけた。</p> <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 770 2051 879"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>地域連携プラットフォームの構築に向け、先行してリカレント教育プラットフォームを構築し、課題・ニーズの集約、情報発信、課題解決に向けた取組等順調に進めている。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	地域連携プラットフォームの構築に向け、先行してリカレント教育プラットフォームを構築し、課題・ニーズの集約、情報発信、課題解決に向けた取組等順調に進めている。
①地域連携プラットフォームにおける地域ニーズへの対応状況・方針及び法人ビジョンの公開						
No.	進捗等					
①	地域連携プラットフォームの構築に向け、先行してリカレント教育プラットフォームを構築し、課題・ニーズの集約、情報発信、課題解決に向けた取組等順調に進めている。					

国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、求められる人材を育成するため、柔軟かつ機動的に教育プログラムや教育研究組織の改編・整備を推進することにより、需要と供給のマッチングを図る。

中期計画	中期計画の実施状況等																				
<p>【01】北海道における商農工連携・融合型の人材育成拠点として、令和4年度に教育イノベーションセンターを設置し、教育プログラムの運用体制を整備する。また、教学IR(Institutional Research)、FD・SD (Faculty Development・Staff Development) を担当する教育質保証部門を中心に、連携教育や遠隔教育の質保証システムを構築し、社会や地域に対するニーズ調査や学生の動向に関する調査及び三大学相互提供・共同提供科目、副専攻型プログラム等の学修効果の可視化・点検・評価を行い、教育プログラムの不断の改善・発展に結び付ける。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①ニーズ調査や学修効果の可視化等の実施、分析・公表、改善による、教育イノベーションセンターにおける内部質保証システムの確立</p> <p>②教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数：12回（第4期中期目標期間における合計）</p> </div>	<p>《中期計画の実施状況》 <令和5年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育イノベーションセンターの教学 IR、FD・SD 検討チームが、令和5年度3大学相互提供・共同提供科目の授業評価アンケートを実施した。各検討チームが保有するデータ分析及び質保証システムの骨子策定検討に関しては、令和6年度に行うこととした。 ・令和6年1月19日に教育イノベーションセンター教学 IR、FD・SD 検討チーム主催により生成AIの活用方法をテーマとして研修会「ChatGPTの仕組みと最新動向および教育現場での使用方法について」を開催し、3大学及び機構本部の教職員134名が参加した。 <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 671 1055 715">No.</th> <th data-bbox="1055 671 2051 715">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 715 1055 783">①</td> <td data-bbox="1055 715 2051 783">教育イノベーションセンターの教育質保証部門において、相互提供・共同提供科目の自己点検・評価を行い、次年度以降の継続的な分析、改善といった質の保証に取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 783 1055 1161">②</td> <td data-bbox="1055 783 2051 1161"> 教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数：1回（令和5年度終了時合計2回） <div style="text-align: center;">  <p>教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数（合計）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>1</td></tr> <tr><td>R6</td><td>0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>0</td></tr> <tr><td>R8</td><td>0</td></tr> <tr><td>R9</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	教育イノベーションセンターの教育質保証部門において、相互提供・共同提供科目の自己点検・評価を行い、次年度以降の継続的な分析、改善といった質の保証に取り組んでいる。	②	教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数：1回（令和5年度終了時合計2回） <div style="text-align: center;">  <p>教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数（合計）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>1</td></tr> <tr><td>R6</td><td>0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>0</td></tr> <tr><td>R8</td><td>0</td></tr> <tr><td>R9</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	回数	R4	1	R5	1	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0
No.	進捗等																				
①	教育イノベーションセンターの教育質保証部門において、相互提供・共同提供科目の自己点検・評価を行い、次年度以降の継続的な分析、改善といった質の保証に取り組んでいる。																				
②	教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数：1回（令和5年度終了時合計2回） <div style="text-align: center;">  <p>教育の質の向上に係るFD・SD研修等の回数（合計）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>1</td></tr> <tr><td>R6</td><td>0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>0</td></tr> <tr><td>R8</td><td>0</td></tr> <tr><td>R9</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	回数	R4	1	R5	1	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0						
年度	回数																				
R4	1																				
R5	1																				
R6	0																				
R7	0																				
R8	0																				
R9	0																				

中期計画

中期計画の実施状況等

【02】北見工業大学大学院工学研究科博士後期課程を令和5年度を目標に改組し、同大の研究推進センター等で行われている北見工業大学の強み・特色ある教育研究やオープンイノベーションセンターにおける研究フィールドを実践教育の場として活用することで、社会実課題に対して様々な分野の人々と協働しながら多様な専門知識を複合的且つ高次元に相乗して解決に貢献できる共創型人材の養成・輩出を推進する。

○評価指標

①オープンイノベーションセンターや研究推進センター等と博士後期課程の論文テーマでの連携件数及び共同研究への学生参画件数：12件（第4期中期目標期間における合計）

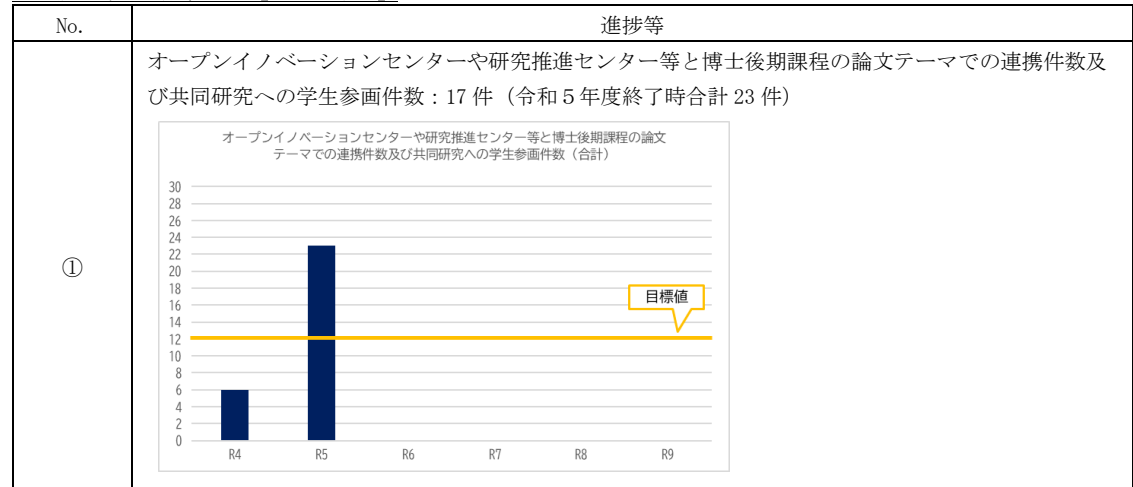
《中期計画の実施状況》

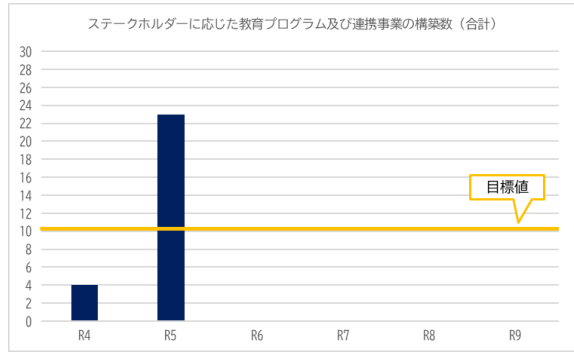
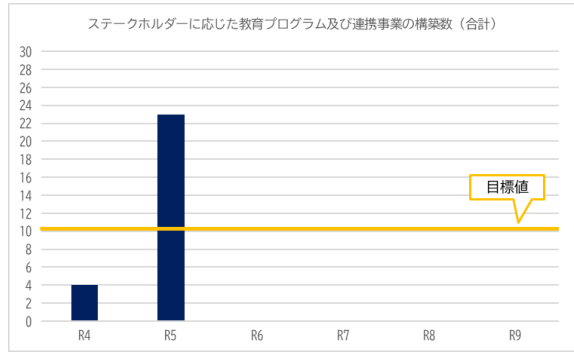
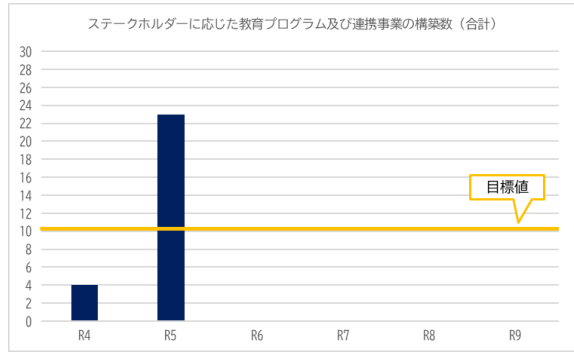
＜令和5年度の実績＞

- ・オープンイノベーションセンター（ACE）や研究推進センター等と博士後期課程の論文テーマでの連携件数及び共同研究への学生参画件数は17件であり、目標件数に達した。
- ・令和5年4月に環境・エネルギー研究推進センターの機能を強化して「地域循環共生研究推進センター」へと改組した。
- ・美幌町との包括連携協定を基に、令和6年3月にカーボンニュートラル実証実験施設を同町に建設した。

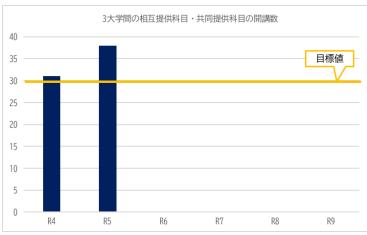
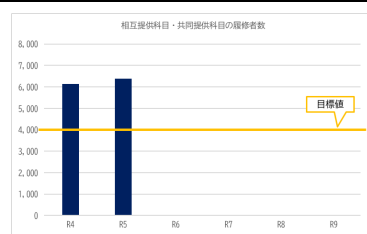
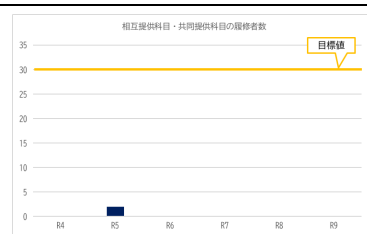
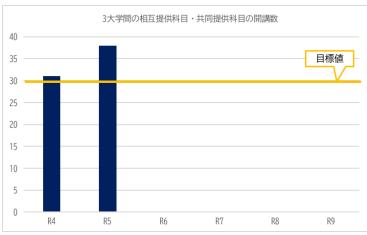
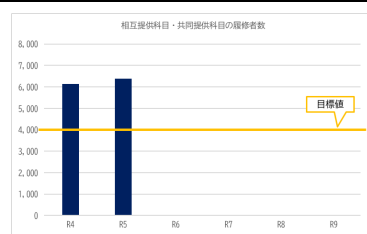
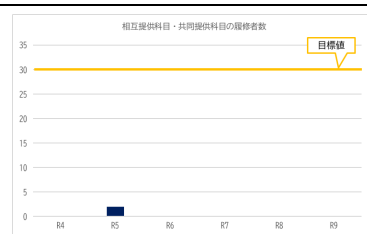
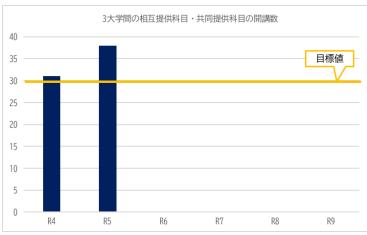
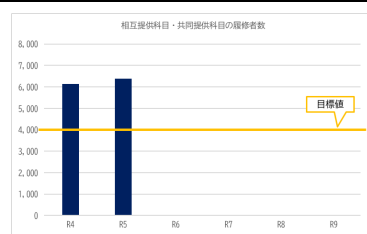
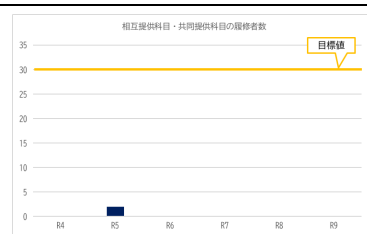
【評価指標の達成状況】

・評価指標の達成状況 【令和5年度】

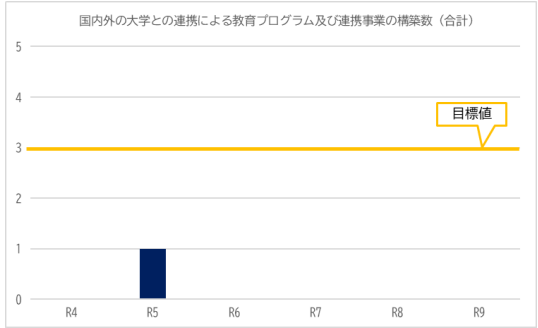
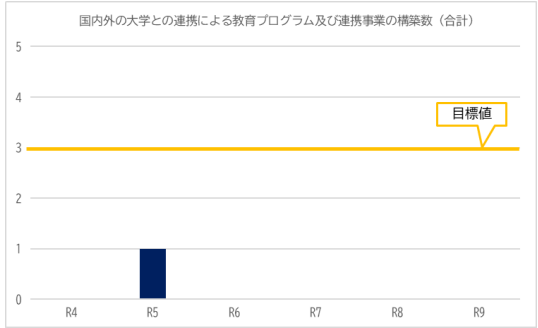
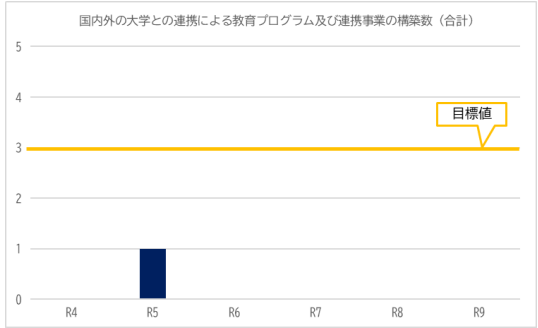


中期計画	中期計画の実施状況等				
<p>【03】小樽商科大学では、あらゆる研究分野と共創が可能な「商学」という特徴を生かし、社会科学を中心として、社会（産業界・行政・他大学）のハブの役割を担い、これまで培ってきた「グローバル教育研究」及び「アントレプレナーシップ教育研究」を推進・発展させることで、北海道においてあらゆる世代が時間・場所を問わず高等教育にアクセスすることができるインクルーシブな高等教育の実現を目指す。</p> <p>○評価指標</p> <p>①ステークホルダーに応じた教育プログラム及び連携事業の構築数：10本（第4期中期目標期間における合計）</p>	<p>≪中期計画の実施状況≫ <令和5年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上川町との「官民連携スタートアップ作成会議」、音更町との「産学官ビジネスセミナー」、中標津町との「アントレワークキャンプ地域課題解決ビジネス考案」等、地域に応じた連携事業、教育プログラムを19件実施した。 ・将来構想委員会の下に立ち上げた教育課程改善専門部会（夜間主コース）において議論を重ねた結果、地域アントレプレナーを育成することを改革のコンセプトとした中間報告（夜間主コース改革の骨子）を令和5年11月に策定した。 ・遠隔授業支援システム導入においては、令和5年度末に配信授業管理・授業配信・履修管理の3つの基盤からなる統合的なシステムの導入が完了した。 ・ユニバーサル・ユニバーシティ構想などの本学の構想・戦略を推進するための事務体制について検討を重ねた結果、令和6年4月に企画総務課と学術情報課の2つの課を再編し、企画総務課に研究・社会連携推進室を新設することとした。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 638 1055 678">No.</th> <th data-bbox="1055 638 2051 678">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 678 1055 1088">①</td> <td data-bbox="1055 678 2051 1088"> ステークホルダーに応じた教育プログラム及び連携事業の構築数：19本（令和5年度終了時合計23本）  </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	ステークホルダーに応じた教育プログラム及び連携事業の構築数：19本（令和5年度終了時合計23本） 
No.	進捗等				
①	ステークホルダーに応じた教育プログラム及び連携事業の構築数：19本（令和5年度終了時合計23本） 				

特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。

中期計画	中期計画の実施状況等								
<p>【01】現代社会のニーズに対応した分野を超えた専門知識や幅広い教養を身に付けることができるよう、数理・データサイエンス、AI、教養教育・リベラルアーツ等の科目を三大学で共同運用する。また、三大学の専門分野を生かした文理融合の副専攻型プログラムにより、他分野の科目の体系的な学修を可能とする。さらに、単位累積型学位取得プログラムなど、学びの多様性・自主性や教育研究の学際化に対応した新しい共同教育プログラムを検討する。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①相互提供科目・共同提供科目の科目数：30科目（第4期中期目標期間終了時）</p> <p>②相互提供科目・共同提供科目の履修者数：延べ4,000名（第4期中期目標期間終了時）</p> <p>③副専攻型プログラムの修了者数：30名（第4期中期目標期間における合計）</p> </div>	<p>《中期計画の実施状況》 <令和5年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3大学の広報誌に教育イノベーションセンターにおける多様な学びについて掲載したほか、北海道高等教育研究大会に協賛広告を掲載し、受験生・保護者・高校教諭等に対して機構の取組を広報した。 ・3大学合計で38科目を相互提供（小樽12科目、帯広19科目、北見7科目）した結果、1,2年次生の延べ6,383名が相互提供科目を履修（うち、他大学の提供科目に限定すると延べ1,056名）し、異分野への関心・理解を深めた。 ・3つの副専攻型プログラム（アントレプレナーシッププログラム、スマート農畜産業プログラム、スポーツ・健康プログラム）が始動した。また、先行始動していたスマート農畜産業プログラムから2名の修了者を出した。 <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 711 1055 751">No.</th> <th data-bbox="1055 711 2051 751">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 751 1055 991">①</td> <td data-bbox="1055 751 2051 991"> 相互提供科目・共同提供科目の科目数：38科目  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 991 1055 1230">②</td> <td data-bbox="1055 991 2051 1230"> 相互提供科目・共同提供科目の履修者数：6,383名  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 1230 1055 1476">③</td> <td data-bbox="1055 1230 2051 1476"> 副専攻型プログラムの修了者数：2名 （令和5年度終了時合計2名）  </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	相互提供科目・共同提供科目の科目数：38科目 	②	相互提供科目・共同提供科目の履修者数：6,383名 	③	副専攻型プログラムの修了者数：2名 （令和5年度終了時合計2名） 
No.	進捗等								
①	相互提供科目・共同提供科目の科目数：38科目 								
②	相互提供科目・共同提供科目の履修者数：6,383名 								
③	副専攻型プログラムの修了者数：2名 （令和5年度終了時合計2名） 								

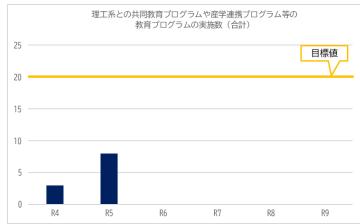
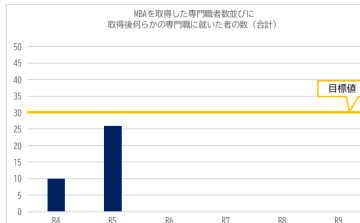
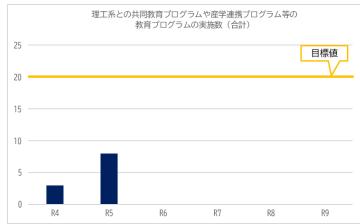
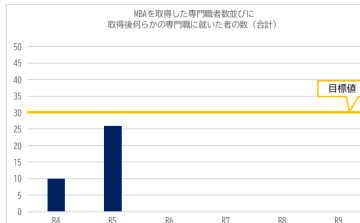
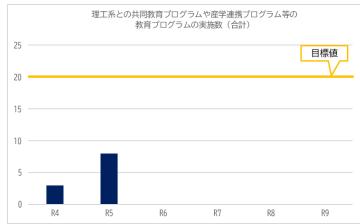
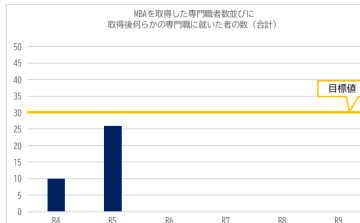
研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。

中期計画	中期計画の実施状況等																		
<p>【01】小樽商科大学では、学部教育において成果を上げているグローバル人材の育成を、大学院教育にも発展させ、学生が国際的に切磋琢磨できる環境を整備することで、社会変化に対応する知のプロフェッショナルを育成する。</p> <p>○評価指標</p> <p>①国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数：3本（第4期中期目標期間における合計）</p>	<p>《中期計画の実施状況》</p> <p>＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学と和歌山大学と連携し「地域/社会課題を解決する対話型ビジネス価値共創人材養成のための価値創発から社会実装までの一貫教育プログラム」を構築した。プログラムでは実際の地域/社会の課題を見出し、それをビジネスの視点から解決できる人材を養成を目的とするもので、神戸大学や和歌山大学が提供する講義の受講が可能となっており、英語で開講される科目も含まれている。 ・九州大学共創学部との授業相互配信の可能性について、令和5年12月に九州大学と本学で検討を行った。その結果、令和7年度からの開始に向け、令和6年度に授業科目についての学生ニーズ調査を行うことが決定した。 ・ノースウェスタン大学集中講義の後継プログラムを検討するにあたり、オタゴ大学への調査を実施中である。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 833 2056 1286"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 833 1055 874">No.</th> <th data-bbox="1055 833 2056 874">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 874 1055 1286">①</td> <td data-bbox="1055 874 2056 1286"> <p>国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数: 1本(令和5年度終了時合計1本)</p>  <p>国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数（合計）</p> <table border="1"> <caption>構築数（合計）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>構築数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	<p>国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数: 1本(令和5年度終了時合計1本)</p>  <p>国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数（合計）</p> <table border="1"> <caption>構築数（合計）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>構築数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	構築数	R4	0	R5	1	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0
No.	進捗等																		
①	<p>国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数: 1本(令和5年度終了時合計1本)</p>  <p>国内外の大学との連携による教育プログラム及び連携事業の構築数（合計）</p> <table border="1"> <caption>構築数（合計）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>構築数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	構築数	R4	0	R5	1	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0				
年度	構築数																		
R4	0																		
R5	1																		
R6	0																		
R7	0																		
R8	0																		
R9	0																		

深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。（博士課程）

中期計画	中期計画の実施状況等								
<p>【01】所属大学の枠を超えて相互に研究指導を受けられる体制を構築し、異なる領域の博士課程学生が、公的試験研究機関等との連携大学院や研究フィールドにおける共同研究を通じて、課題発掘から解決までの一連のプロセスに実践的に取り組むことで、社会の実課題に対して様々な分野の人々と協働しながら多様な専門知識を複合的かつ高次元に相乗して解決に貢献できる共創型人材の養成を推進する。</p> <p>○評価指標</p> <table border="1" data-bbox="174 651 907 863"> <tr> <td data-bbox="174 651 907 754">①連携大学院における共同研究や分野融合型共同・受託研究に参画した経験のある博士課程学生の割合：10%（第4期中期目標期間終了時）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="174 754 907 863">②連携大学院における共同研究や分野融合型共同・受託研究に参画した成果としての共著論文の公表：参画した博士課程学生1人あたり1本以上</td> </tr> </table>	①連携大学院における共同研究や分野融合型共同・受託研究に参画した経験のある博士課程学生の割合：10%（第4期中期目標期間終了時）	②連携大学院における共同研究や分野融合型共同・受託研究に参画した成果としての共著論文の公表：参画した博士課程学生1人あたり1本以上	<p>《中期計画の実施状況》</p> <p>＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年7月に国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）と、教育及び研究における連携に関する協定（連携大学院協定）を締結した。 連携教員の定義と連携教員の教員資格審査基準を整備した。 北海道農業研究センター芽室拠点の訪問等を通じて、連携教員の選出と学位取得を希望する研究者のニーズの把握に着手するとともに、「学位取得支援プログラム」案の検討を開始した。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 643 2056 826"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 643 1055 683">No.</th> <th data-bbox="1055 643 2056 683">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 683 1055 754">①</td> <td data-bbox="1055 683 2056 754">令和5年度時点では連携大学院未設置のため実績なし。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 754 1055 826">②</td> <td data-bbox="1055 754 2056 826">令和5年度時点では連携大学院未設置のため実績なし。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	令和5年度時点では連携大学院未設置のため実績なし。	②	令和5年度時点では連携大学院未設置のため実績なし。
①連携大学院における共同研究や分野融合型共同・受託研究に参画した経験のある博士課程学生の割合：10%（第4期中期目標期間終了時）									
②連携大学院における共同研究や分野融合型共同・受託研究に参画した成果としての共著論文の公表：参画した博士課程学生1人あたり1本以上									
No.	進捗等								
①	令和5年度時点では連携大学院未設置のため実績なし。								
②	令和5年度時点では連携大学院未設置のため実績なし。								

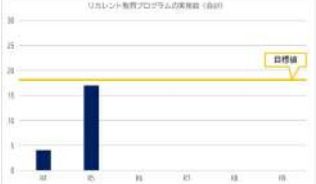
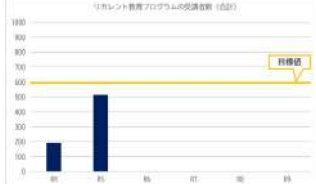
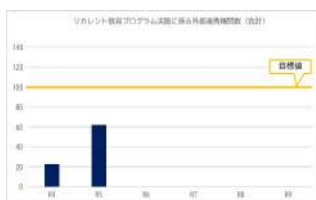
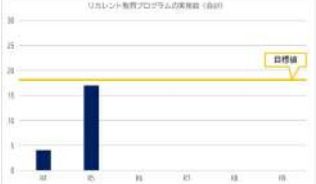
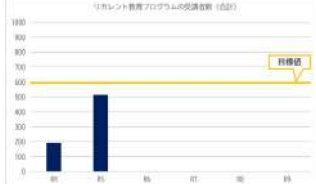
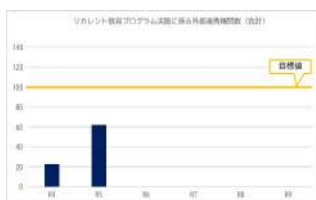
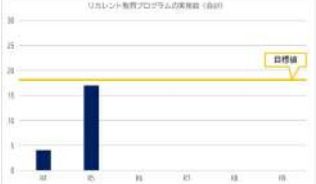
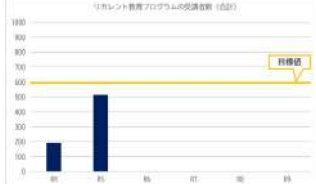
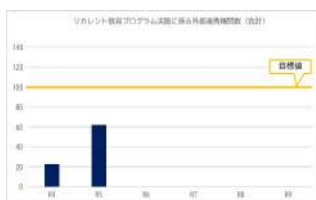
特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。（専門職学位課程）

中期計画	中期計画の実施状況等						
<p>【01】小樽商科大学商学研究科アントレプレナーシップ専攻では、ビジネス・リーダー及びビジネス・イノベーターに必要とされる経営管理に関わる知識・スキルに加え、産業界・行政及び他大学との連携（MBA特別コース等）により、産業界をみる際の多様な視点・国際的な感覚の違いを涵養する教育環境を充実し、文系・理系の枠を超えたMBAホルダーを輩出する。</p> <p>○評価指標</p> <p>①理工系との共同教育プログラムや産学連携プログラム等の教育プログラムの実施数：20回（第4期中期目標期間における合計）</p> <p>②MBAを取得した専門職者数並びに取得後何らかの専門職に就いた者の数：30名（第4期中期目標期間における合計）</p>	<p>《中期計画の実施状況》</p> <p>＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特殊講義Ⅱ」、「特殊講義Ⅲ」、「特別講義Ⅰ」、「特別講義Ⅱ」、「ビジネスワークショップ及びリサーチペーパー（ビジネスサポート研究会）」において、他分野の大学や産業界と連携して、基本となるカリキュラムに加えて時代に応じた新たな知識・スキルを提供する科目を開講した。 ・様々な分野から優秀な学生を受け入れることを目的として、北海道大学大学院各研究科と個別に結んでいたMBA特別コースに関する協定を統括し、北海道大学大学院教育推進機構と北海道大学大学院全体を対象とした協定を締結した。さらに、翌年度は新協定に基づき、保健科学院から1名が本制度により科目等履修生として入学することが決定している。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 802 1055 839">No.</th> <th data-bbox="1055 802 2056 839">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 839 1055 1117">①</td> <td data-bbox="1055 839 2056 1117"> <p>理工系との共同教育プログラムや産学連携プログラム等の教育プログラムの実施数：5回 (令和5年度終了時合計8回)</p>  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 1117 1055 1394">②</td> <td data-bbox="1055 1117 2056 1394"> <p>MBAを取得した専門職者数並びに取得後何らかの専門職に就いた者の数：16名 (令和5年度終了時合計26名)</p>  </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	<p>理工系との共同教育プログラムや産学連携プログラム等の教育プログラムの実施数：5回 (令和5年度終了時合計8回)</p> 	②	<p>MBAを取得した専門職者数並びに取得後何らかの専門職に就いた者の数：16名 (令和5年度終了時合計26名)</p> 
No.	進捗等						
①	<p>理工系との共同教育プログラムや産学連携プログラム等の教育プログラムの実施数：5回 (令和5年度終了時合計8回)</p> 						
②	<p>MBAを取得した専門職者数並びに取得後何らかの専門職に就いた者の数：16名 (令和5年度終了時合計26名)</p> 						

獣医師養成を目的とした課程において、当核職業分野で必要とされる資質・能力を意識し、国際水準の教育課程を提供することで、当核職業分野を先導し、中核となって活躍できる人材を養成する。

中期計画	中期計画の実施状況等						
<p>【01】帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程において、カリキュラムの不断の改善や学生及び関係団体・企業等の学内外のステークホルダーとの対話によって、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の認証により国際水準を満たす獣医師教育を維持し、更なる第三者評価によってその質を担保する。また、獣医師として求められる資質を身につけ、国際的視野と幅広い問題意識を持ち、多様な分野で活躍する獣医師を養成する。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①大学基準協会の獣医学教育評価の適合、EAEVE中間評価・再受審の結果、認証の維持（★）</p> <p>②学生及び就職先アンケート結果の公表及び分析による教育の質の改善</p> </div> <p style="text-align: right;">★＝意欲的な評価指標</p>	<p>《中期計画の実施状況》</p> <p>＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EAEVE 中間評価結果を受領した結果、指摘事項はなかった。 ・令和4年度アンケート分析結果について北大と共有し、教育改善に着手し、以下の改善を実施した。また、昨年度と同様に学生アンケートを実施し、結果を分析中である。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 診察や処置のトレーニングを行うスキルスラボにおいて、学生からの意見を基にトレーニング機器の充実を実施した。 ➢ 図書館において、コアカリキュラムに関連する教科書を集約するとともに、貸し出しができない複本を購入するなど、学習環境の充実を図った。 ➢ 学生の受講しやすさを考慮し、授業時間割を変更した。 ・鹿児島大学の教員を招聘し、SOP（標準作業手順書）2023 の変更点の講演や施設視察、情報交換を実施した。 ・酪農学園大学が実施のEAEVE 現会長による SOP2023 に関する説明会に参加し、北海道大学、酪農学園大学と情報交換を実施した。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 895 2056 1078"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>大学基準協会の獣医学教育評価については、令和4年度に適合済、EAEVE の獣医学教育認証については、中間評価の結果、指摘事項が無く、順調に進捗している。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>学生アンケートを踏まえた教育内容・環境の変更を実施し、順調に教育の質の改善を図っている。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	大学基準協会の獣医学教育評価については、令和4年度に適合済、EAEVE の獣医学教育認証については、中間評価の結果、指摘事項が無く、順調に進捗している。	②	学生アンケートを踏まえた教育内容・環境の変更を実施し、順調に教育の質の改善を図っている。
No.	進捗等						
①	大学基準協会の獣医学教育評価については、令和4年度に適合済、EAEVE の獣医学教育認証については、中間評価の結果、指摘事項が無く、順調に進捗している。						
②	学生アンケートを踏まえた教育内容・環境の変更を実施し、順調に教育の質の改善を図っている。						

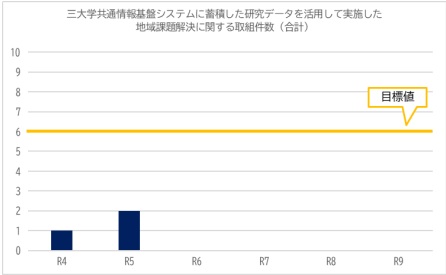
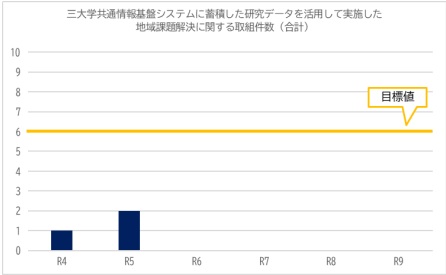
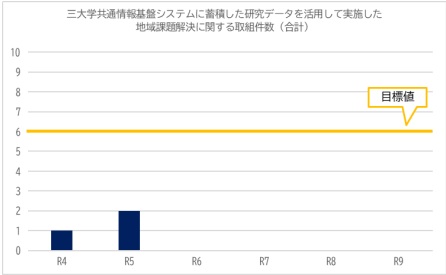
データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AI など新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。

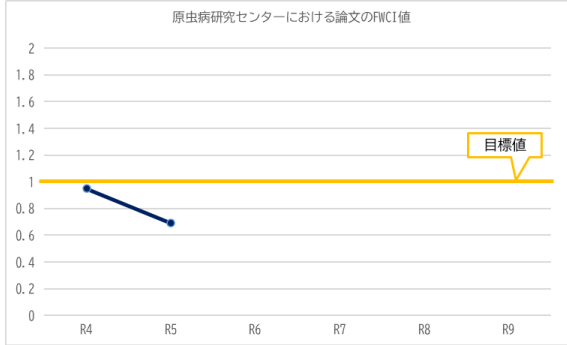
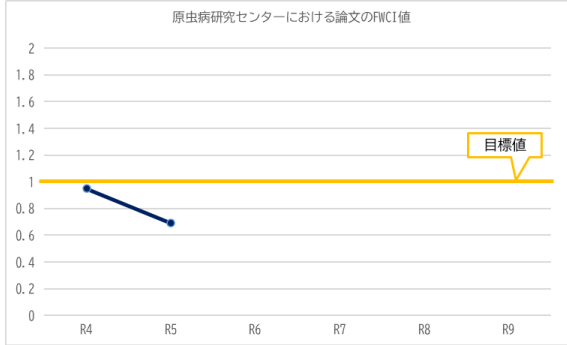
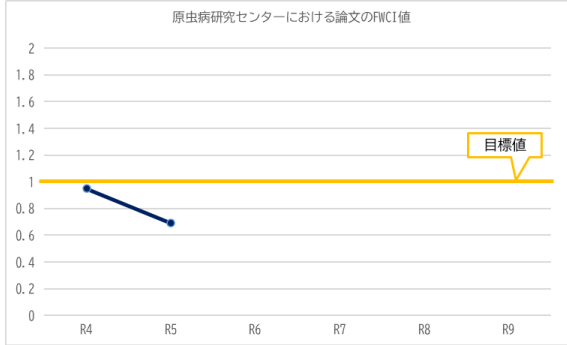
中期計画	中期計画の実施状況等								
<p>【01】 先端的な専門知識・技術、経営・マネジメント等を教授するリカレント教育プログラムを展開することで、北海道の観光、医療、食、スポーツ・健康、ものづくり等の産業振興に貢献できる人材や数理・データサイエンス・AI等新たなリテラシーを身に付けた人材を育成し、社会人のキャリアアップを支援する。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①リカレント教育プログラムの実施数：18回（第4期中期目標期間における合計）</p> <p>②リカレント教育プログラムの受講者数：600名（第4期中期目標期間における合計）</p> <p>③リカレント教育プログラム実施に係る外部連携機関数：100機関（第4期中期目標期間における合計）</p> </div>	<p>《中期計画の実施状況》</p> <p>＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「HACCP・食品安全管理プログラム HACCPの基礎を学ぶ」、「HACCP 食品・安全管理プログラム」、「地域型 DX 活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座」、「中小・小規模企業者を対象としたSDGs 実践セミナー」の4テーマで13回の教育プログラムを実施した。対面開催に加え、リアルタイム配信やオンデマンド配信を積極的に活用した結果、延べ318名が受講した。 北海道の産学官金 39 機関と連携してリカレント教育プログラムを企画・実施し、産業振興に貢献する人材の育成に関する協力関係を構築した。 受講生の評価結果及び「北海道リカレント教育プラットフォーム」が実施したリカレント教育のニーズ調査結果をフィードバックし、プログラム改訂の検討に着手した。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 722 1055 759">No.</th> <th data-bbox="1055 722 2056 759">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 759 1055 986">①</td> <td data-bbox="1055 759 2056 986"> リカレント教育プログラムの実施数：13回（令和5年度終了時合計17回）  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 986 1055 1209">②</td> <td data-bbox="1055 986 2056 1209"> リカレント教育プログラムの受講者数：318名（令和5年度終了時合計512名）  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 1209 1055 1468">③</td> <td data-bbox="1055 1209 2056 1468"> リカレント教育プログラム実施に係る外部連携機関数：39機関（令和5年度終了時合計62機関）  </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	リカレント教育プログラムの実施数：13回（令和5年度終了時合計17回） 	②	リカレント教育プログラムの受講者数：318名（令和5年度終了時合計512名） 	③	リカレント教育プログラム実施に係る外部連携機関数：39機関（令和5年度終了時合計62機関） 
No.	進捗等								
①	リカレント教育プログラムの実施数：13回（令和5年度終了時合計17回） 								
②	リカレント教育プログラムの受講者数：318名（令和5年度終了時合計512名） 								
③	リカレント教育プログラム実施に係る外部連携機関数：39機関（令和5年度終了時合計62機関） 								

地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。

中期計画	中期計画の実施状況等						
<p>【01】 地域の主要産業の活性化や課題解決に寄与するため、AI/IoTスマート農畜産業、防災、観光等の分野融合研究の重点推進、地域連携プラットフォームにおける産業界ニーズの把握、オープンイノベーションセンターを中心とした産学官金連携の推進、実証試験支援ファンドの設立等によって、社会実装につながる三大学の研究開発を促進させる。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数：24件（第4期中期目標期間における合計）</p> <p>②公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：6件（第4期中期目標期間における合計）</p> </div>	<p>＜中期計画の実施状況＞ ＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究を6件（新規3件、継続3件）実施した。 ・DIASからの資金導入によるデータ駆動・発見型観光創出プロジェクト（Zekkei-PJ）、農林水産省の資金獲得による酪農・コントラクター向けトラックが伴走できる運転支援システムの技術開発、ノーステック財団からの資金獲得による広葉樹に関する情報収集の技術開発、広葉樹の付加価値の高い利活用促進に関する実証実験を行った。 ・促進共同研究を公募し、5件の分野融合型共同研究の支援を行った。うち3件は自治体の参画があり、共同研究契約や秘密保持契約の締結後、地域課題解決を志向した研究を実施した。 ・「社会実装支援助成」を募集し、分野融合型共同研究から得られた成果を活用した起業、会社設立等の支援を行った。 <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 791 1055 831">No.</th> <th data-bbox="1055 791 2051 831">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 831 1055 1150">①</td> <td data-bbox="1055 831 2051 1150"> 地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数：6件（令和5年度終了時合計10件） <div style="text-align: right;"> <p>地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数（合計）</p> </div> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 1150 1055 1471">②</td> <td data-bbox="1055 1150 2051 1471"> 公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：3件（令和5年度終了時合計4件） <div style="text-align: right;"> <p>公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数（合計）</p> </div> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数：6件（令和5年度終了時合計10件） <div style="text-align: right;"> <p>地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数（合計）</p> </div>	②	公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：3件（令和5年度終了時合計4件） <div style="text-align: right;"> <p>公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数（合計）</p> </div>
No.	進捗等						
①	地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数：6件（令和5年度終了時合計10件） <div style="text-align: right;"> <p>地域企業・地方自治体等と本法人の複数大学で取り組む、地域課題解決を志向した分野融合型共同・受託研究数（合計）</p> </div>						
②	公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：3件（令和5年度終了時合計4件） <div style="text-align: right;"> <p>公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数（合計）</p> </div>						

国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究等を推進することにより、自らが有する研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。

中期計画	中期計画の実施状況等																		
<p>【01】一法人複数大学制度の下、三大学の商学・農学・工学に関する研究データを国の共通ICT基盤を活用して一元管理し、三大学間並びに産学官金との組織的な連携や共同研究を推進する。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数：6件（第4期中期目標期間における合計）</p> </div>	<p>＜中期計画の実施状況＞ ＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zekkei プロジェクトにおいて、三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用した。 ・研究データを管理するため、知的財産関連の統一ルールを構築した。また、研究データ管理・公開ポリシーの検討を進めた。 ・複数の研究機関が統合した経緯がある北海道立総合研究機構において、経営統合後の知的財産の取り扱いや統合時の体制構築についての情報収集・意見交換を実施した。 ・GakuNin-RDM に、REDMINE 及び SLACK の機能を合体させたオリジナルポータルシステム「ORION」を仮稼働させてオープンイノベーションセンター内で試行的に運用し、事務データの共有や業務効率化に向けた検討を行った。 <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 715 2056 1139"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 715 1055 751">No.</th> <th data-bbox="1055 715 2056 751">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 751 1055 1139">①</td> <td data-bbox="1055 751 2056 1139"> <p>三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数：1件（令和5年度終了時合計2件）</p>  <table border="1" style="display: none;"> <caption>三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数（合計）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>取組件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	<p>三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数：1件（令和5年度終了時合計2件）</p>  <table border="1" style="display: none;"> <caption>三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数（合計）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>取組件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	取組件数	R4	1	R5	2	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0
No.	進捗等																		
①	<p>三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数：1件（令和5年度終了時合計2件）</p>  <table border="1" style="display: none;"> <caption>三大学共通情報基盤システムに蓄積した研究データを活用して実施した地域課題解決に関する取組件数（合計）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>取組件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	取組件数	R4	1	R5	2	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0				
年度	取組件数																		
R4	1																		
R5	2																		
R6	0																		
R7	0																		
R8	0																		
R9	0																		

中期計画	中期計画の実施状況等				
<p>【02】 共同利用・共同研究拠点である帯広畜産大学原虫病研究センターにおいて、OIEコラボレーティングセンターとしての国際防疫活動、国際協力機構（JICA）との連携事業等により構築した研究者ネットワークを活用して、原虫病の診断、治療、予防とベクター対策に関する先端研究や原虫病とベクターの制圧及び監視体制構築による国際防疫上の学術貢献を推進する。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①原虫病研究センターにおける論文のFWCI(Field-Weighted Citation Impact) 値：1.00（第4期中期目標期間における平均）</p> </div>	<p>≪中期計画の実施状況≫ <令和5年度の実績> ・原虫病研究センターにおける論文のFWCI（Field-Weighted Citation Impact）値：0.69 ※FWCIは出版年+3か年の被引用数によって算出されるため、変動幅の大きい当該年度の数値は参考値とする。</p> <p>（その他活動状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外での共同研究数：51件 ・国内外からの競争的資金獲得数：32件 ・国際的な学生交流の活性化と高度人材育成の推進(外国人留学生/外国人研修生の受入れ数)：26件、外国人研究員等の受入れ数：11件 ・研究成果有体物の情報公開実施（MMC掲載数）：6件 ・創薬プロジェクトにおいて、候補化合物のin vitro スクリーニング解析を実施した。 ・OIE リファレンスラボラトリー・コラボレーティングセンターの活動として、トキソプラズマについて、10,000件以上のスクリーニング解析を実施した。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 702 2051 1256"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td> <p>原虫病研究センターにおける論文のFWCI（Field-Weighted Citation Impact）値：0.95 ※FWCIは出版年+3か年の被引用数によって算出されるため、変動幅の大きい当該年度の数値は参考値とする。</p>  </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	<p>原虫病研究センターにおける論文のFWCI（Field-Weighted Citation Impact）値：0.95 ※FWCIは出版年+3か年の被引用数によって算出されるため、変動幅の大きい当該年度の数値は参考値とする。</p> 
No.	進捗等				
①	<p>原虫病研究センターにおける論文のFWCI（Field-Weighted Citation Impact）値：0.95 ※FWCIは出版年+3か年の被引用数によって算出されるため、変動幅の大きい当該年度の数値は参考値とする。</p> 				

内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、理事長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。

中期計画	中期計画の実施状況等					
<p>【01】 国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況の確認の活用等によって内部統制機能を実質化するとともに、経済・産業界等の多様なステークホルダーで構成される理事長諮問組織の設置や地域ステークホルダー等との懇談により、専門的知見を有する者の法人経営及び大学運営への参画を推進することで、多様な意見を常時的確に反映できる経営体制を構築する。</p> <p>○評価指標</p> <table border="1" data-bbox="174 635 907 703"> <tr> <td>①外部ステークホルダー、地域ステークホルダー等からの意見及び対応の公表</td> </tr> </table>	①外部ステークホルダー、地域ステークホルダー等からの意見及び対応の公表	<p>《中期計画の実施状況》 <令和5年度の実績> ・国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について報告書を作成し、経営協議会からの意見及び対応状況について機構ウェブサイトに掲載した。 ・理事長アドバイザリーボードを1回実施し、産学連携、外部資金獲得戦略、学生獲得戦略等に関して専門的、先駆的立場から助言をいただいた。 ・業務実績報告書、財務レポート等による情報公開を実施した。</p> <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 627 2054 759"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>外部ステークホルダー及び地域ステークホルダーが参画する経営協議会において、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について審議し、その意見及び対応状況を記載した報告書を機構ウェブサイトで公表した。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	外部ステークホルダー及び地域ステークホルダーが参画する経営協議会において、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について審議し、その意見及び対応状況を記載した報告書を機構ウェブサイトで公表した。
①外部ステークホルダー、地域ステークホルダー等からの意見及び対応の公表						
No.	進捗等					
①	外部ステークホルダー及び地域ステークホルダーが参画する経営協議会において、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について審議し、その意見及び対応状況を記載した報告書を機構ウェブサイトで公表した。					

大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。

中期計画	中期計画の実施状況等					
<p>【01】法人が有する土地・建物等の資産を最大限活用するため、土地・建物等の稼働状況の調査や地域連携プラットフォームによる産業界等の社会ニーズの把握に基づき、法人全体のマネジメントによる戦略的な整備・共用プランを策定する。</p> <p>○評価指標</p> <table border="1" data-bbox="174 563 904 600"> <tr> <td>①資産活用のための整備・共用プランの策定</td> </tr> </table>	①資産活用のための整備・共用プランの策定	<p>《中期計画の実施状況》 <令和5年度の実績> ・施設の活用のため、キャンパス・グランドデザインの根幹となる基本方針（案）を策定した。また、令和7年度のキャンパス・グランドデザインの策定に向けたスケジュールを策定した。 ・研究設備・機器の活用のため、帯広畜産大学において、機器共用化の基本方針、運用体制、機器導入・活用の戦略等を定めた「研究設備・機器マスタープラン 2024 暫定版」を策定した。また、令和6年度には法人として統一した推進体制及び共用方針・マスタープランを策定することとした。</p> <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 632 2054 831"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>施設関係については、令和6年度のキャンパス・グランドデザインの策定に向けて、基本方針案を策定し、順調に進捗している。 研究設備・機器関係においては、令和6年度の推進体制及び共用方針・マスタープランの策定に向け、検討を進めている。なお、帯広畜産大学においては、先行してマスタープラン暫定版を策定し、資産の効果的な活用に向けた体制整備を進めている。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	施設関係については、令和6年度のキャンパス・グランドデザインの策定に向けて、基本方針案を策定し、順調に進捗している。 研究設備・機器関係においては、令和6年度の推進体制及び共用方針・マスタープランの策定に向け、検討を進めている。なお、帯広畜産大学においては、先行してマスタープラン暫定版を策定し、資産の効果的な活用に向けた体制整備を進めている。
①資産活用のための整備・共用プランの策定						
No.	進捗等					
①	施設関係については、令和6年度のキャンパス・グランドデザインの策定に向けて、基本方針案を策定し、順調に進捗している。 研究設備・機器関係においては、令和6年度の推進体制及び共用方針・マスタープランの策定に向け、検討を進めている。なお、帯広畜産大学においては、先行してマスタープラン暫定版を策定し、資産の効果的な活用に向けた体制整備を進めている。					

中 期 目 標 ⑬	公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切ナリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、法人内の資源配分の最適化を進める。
---------------------------------	--

中期計画	中期計画の実施状況等																				
<p>【01】法人基金等法人への寄附金の受け皿を設置した上で、外部資金獲得戦略を企画する組織を設け、公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金の受入れを進めるとともに、資金運用の規程や運用管理委員会の体制を整備し、寄附金の運用体制を構築する。また、地域連携プラットフォームにおける企業・団体等との取組を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤を確立する。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①法人基金等の設置及びその運用体制の構築</p> <p>②公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：6件（第4期中期目標期間における合計）（中期計画9評価指標②再掲）</p> </div>	<p>《中期計画の実施状況》</p> <p>＜令和5年度の実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金のウェブページ、パンフレットを作成し、10月から募集活動を開始し、令和5年度末時点の実績は、寄附件数26件、寄附額5,214万円である。 ・資金運用管理規程を改正し、資金運用統括責任者や民間の金融機関等で資金運用の実務経験がある者等で構成する資金運用管理委員会の設置、運用の評価や基本ポートフォリオ等を新たに規定することにより、資金運用体制を整備した。 ・（中期計画9評価指標②再掲）DIASからの資金導入によるデータ駆動・発見型観光創出プロジェクト（Zekkei-PJ）、農林水産省の資金獲得による酪農・コントラクター向けトラックが伴走できる運搬支援システムの技術開発、ノーステック財団からの資金獲得による広葉樹に関する情報収集の技術開発、広葉樹の付加価値の高い利活用促進に関する実証実験を行った。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">①</td> <td>評価指標である法人基金等の設置及びその運用体制の構築について達成した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td> <p>（中期計画9評価指標②再掲）</p> <p>公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：3件（令和5年度終了時合計4件）</p> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: small;">公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数（合計）</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>Period</th> <th>Number of Projects</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>4</td></tr> <tr><td>R6</td><td>0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>0</td></tr> <tr><td>R8</td><td>0</td></tr> <tr><td>R9</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	評価指標である法人基金等の設置及びその運用体制の構築について達成した。	②	<p>（中期計画9評価指標②再掲）</p> <p>公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：3件（令和5年度終了時合計4件）</p> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: small;">公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数（合計）</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>Period</th> <th>Number of Projects</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>4</td></tr> <tr><td>R6</td><td>0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>0</td></tr> <tr><td>R8</td><td>0</td></tr> <tr><td>R9</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div>	Period	Number of Projects	R4	1	R5	4	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0
No.	進捗等																				
①	評価指標である法人基金等の設置及びその運用体制の構築について達成した。																				
②	<p>（中期計画9評価指標②再掲）</p> <p>公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数：3件（令和5年度終了時合計4件）</p> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: small;">公的資金、寄附金や実証試験支援ファンド等の資金支援による研究プロジェクト数（合計）</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>Period</th> <th>Number of Projects</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R4</td><td>1</td></tr> <tr><td>R5</td><td>4</td></tr> <tr><td>R6</td><td>0</td></tr> <tr><td>R7</td><td>0</td></tr> <tr><td>R8</td><td>0</td></tr> <tr><td>R9</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div>	Period	Number of Projects	R4	1	R5	4	R6	0	R7	0	R8	0	R9	0						
Period	Number of Projects																				
R4	1																				
R5	4																				
R6	0																				
R7	0																				
R8	0																				
R9	0																				

中期 目標 ⑭	外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。
------------------------	--

中期計画	中期計画の実施状況等					
<p>【01】外部理事の登用、経済・産業界等の多様なステークホルダーで構成される理事長諮問組織との対話やIR室を中心としたデータ分析に基づく自己点検・評価結果を踏まえて、業務改善を行い、水準の向上に努めることで、エビデンスベースの法人経営を実現する。</p> <p>○評価指標</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">①各種自己点検・評価活動結果の公表</td> </tr> </table>	①各種自己点検・評価活動結果の公表	<p>≪中期計画の実施状況≫ <令和5年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の自己点検・評価を実施し、その結果を機構のウェブサイト上で公表した。 ・法人の内部質保証に関する規程をNIADとの意見交換を通じて策定中である。 ・令和6年度の産学官金連携統合情報センター（IIC）の設置、研究・外部資金獲得戦略の策定を見据えて、3大学から外部資金獲得、知的財産、研究支援策等のデータを収集した。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">No.</th> <th style="text-align: center;">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">①</td> <td>エビデンスベースの法人経営の実現のため、内部質保証体制の検討、IR分析のためのデータ収集等の取組を着実に進捗させている。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	エビデンスベースの法人経営の実現のため、内部質保証体制の検討、IR分析のためのデータ収集等の取組を着実に進捗させている。
①各種自己点検・評価活動結果の公表						
No.	進捗等					
①	エビデンスベースの法人経営の実現のため、内部質保証体制の検討、IR分析のためのデータ収集等の取組を着実に進捗させている。					

中期計画	中期計画の実施状況等					
<p>【02】経営方針、自己点検・評価、教育・研究・社会貢献等の法人及び各大学の取組を、統合報告書の作成、地域懇談会の開催、WEB上での情報公開等によってステークホルダーに積極的に発信し、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。</p> <p>○評価指標</p> <table border="1" data-bbox="174 384 904 456"> <tr> <td>①外部ステークホルダー、地域ステークホルダー等からの意見及び対応の公表（中期計画11評価指標①再掲）</td> </tr> </table>	①外部ステークホルダー、地域ステークホルダー等からの意見及び対応の公表（中期計画11評価指標①再掲）	<p>≪中期計画の実施状況≫ <令和5年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 各大学の業務実績報告書、財務レポート等による情報公開を実施した。 統合報告書の作成に向けた検討に着手した。 広報・情報発信の強化に向け、令和6年度内の機構ウェブサイト改修に向けた検討を開始した。 <p>【評価指標の達成状況】</p> <p>・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1" data-bbox="936 379 2056 557"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 379 1055 416">No.</th> <th data-bbox="1055 379 2056 416">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 416 1055 557">①</td> <td data-bbox="1055 416 2056 557"> （中期計画 11 評価指標①再掲） 外部ステークホルダー及び地域ステークホルダーが参画する経営協議会において、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について審議し、その意見及び対応状況を記載した報告書を機構ウェブサイトで公表した。 </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	（中期計画 11 評価指標①再掲） 外部ステークホルダー及び地域ステークホルダーが参画する経営協議会において、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について審議し、その意見及び対応状況を記載した報告書を機構ウェブサイトで公表した。
①外部ステークホルダー、地域ステークホルダー等からの意見及び対応の公表（中期計画11評価指標①再掲）						
No.	進捗等					
①	（中期計画 11 評価指標①再掲） 外部ステークホルダー及び地域ステークホルダーが参画する経営協議会において、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況について審議し、その意見及び対応状況を記載した報告書を機構ウェブサイトで公表した。					

AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。

中期計画	中期計画の実施状況等						
<p>【01】三大学の業務システムの統一化に加え、最先端のICT環境を活用したリモートワーク、シェアードサービス等を導入することで、特定の業務領域において集約・集中処理するなど、広域大学統合においても円滑な業務が可能な事務組織を構築する。また、これらの業務の集約化・効率化により事務業務コストを削減し、教育・研究分野に充当する。さらに、各大学の最高情報セキュリティ責任者を中心とした委員会を法人に設置し、情報セキュリティ強化の推進を図る。</p> <p>○評価指標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①デジタル技術を活用した事務改善：4件（第4期中期目標期間における合計）</p> <p>②事務業務の集約化・効率化による業務コストの削減：3億円（第4期中期目標期間における合計）</p> </div>	<p>＜中期計画の実施状況＞ ＜令和5年度の実績＞ ・10月から経理課業務においてNTTアドバンステクノロジーからRPAを導入した結果、旅費、謝金等の各種伝票の自動起票、自動印刷、支払通知書の自動発行、メール作成等の業務が自動化された。 ・ID管理の効率化及び情報セキュリティ対策を目的としたフェデレーション統合を実施した。 ・統合による業務集約化で、人件費、システム保守費、その他経費を2020年度比で約7,458万円削減した。RPA導入等の新規コストを勘案した削減効果額は約5,922万円である。</p> <p>【評価指標の達成状況】 ・評価指標の達成状況 【令和5年度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="936 619 1055 655">No.</th> <th data-bbox="1055 619 2051 655">進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="936 655 1055 1010">①</td> <td data-bbox="1055 655 2051 1010"> デジタル技術を活用した事務改善：2件（令和5年度終了時合計3件） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 1010 1055 1393">②</td> <td data-bbox="1055 1010 2051 1393"> 事務業務の集約化・効率化による業務コストの削減：0.59億円（令和5年度終了時合計1.13億円） </td> </tr> </tbody> </table>	No.	進捗等	①	デジタル技術を活用した事務改善：2件（令和5年度終了時合計3件） 	②	事務業務の集約化・効率化による業務コストの削減：0.59億円（令和5年度終了時合計1.13億円）
No.	進捗等						
①	デジタル技術を活用した事務改善：2件（令和5年度終了時合計3件） 						
②	事務業務の集約化・効率化による業務コストの削減：0.59億円（令和5年度終了時合計1.13億円） 						